

令和6年度事業報告書

はじめに

生乳の需給緩和の状況は依然続く中、資材価格の高騰等により酪農乳業全体が大変厳しい経営環境にあります。このような中で酪農乳業に携わる方々の様々なご要望に的確にお応えできるよう、令和6年3月6日開催の第37回理事会で承認された事業計画に沿って、財政の健全化と信頼性・サービス向上の両立に努めつつ、事業を実施しました。

乳・乳製品にこだわった試験検査機関として引き継がれ培われてきた技術やノウハウ等を最大限に活かしつつ、食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025 認定試験所として、新たな分野も含めてより一層の研鑽を積んで、信頼の確保に努めました。

大幅に減少した業務量は引き続き回復し、新たな業務にも積極的に取り組み、酪農乳業界みなさまの試験検査機関としての役割を果たせるように努めました。

各事業の概要は、以下のとおりです。

〔公益目的事業〕

1 法令に基づく検査・認定

(1)食品衛生法に基づく試験検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、輸入乳製品の食品衛生関連法令に基づく試験検査を実施しました。

- ・輸入乳製品の自主検査（脱脂粉乳、バター、ホエイパウダー等）

53 検体（5 年度 60 検体、4 年度 59 検体、3 年度 77 検体）

(2)指定乳製品等検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、畜産物の価格安定等に関する法律施行規則等に基づき、輸入乳製品の品質検査を実施しました。依頼者の要請に的確に応えられるよう、サンプリング、検査の計画を立てて実施しました。4 年ぶりにバターの追加輸入がありました。

単位：検体

種類	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
バター	2,840	2,218	1,773	1,762
脱脂粉乳	99	194	23	62
ホエイ及び調製ホエイ	55	184	249	319
デリースプレッド	0	0	0	0
バターオイル	60	52	64	51
加糖練乳	0	0	0	0
計	3,054	2,648	2,109	2,194

2 依頼による試験・調査

(1)依頼による食品等の理化学的、微生物学的試験

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025 認定試験所として、試験を受託して実施しました。

- ・受託品目：飲用乳、アイスクリーム類、調製粉乳、発酵乳、練乳、チーズ、脱脂粉乳、飼料用粉乳、その他食品等
- ・試験項目：理化学
 - 乳脂肪分、無脂乳固形分、たんぱく質、灰分、放射能、金属 (Na、Ca)、溶解度、スコーチドパーティクル等
 - 微生物
 - 細菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、リステリア、高温菌数等
- ・検体数：2,808 検体
 - (5 年度：2,718 検体、4 年度：3,210 検体、3 年度：2,479 検体)
 - うち、放射能検査：209 検体
 - (5 年度 230 検体、4 年度 211 検体、3 年度：253 検体)

(2)HACCP 制度化等に対する対応

食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法（HACCP 支援法）に基づく指定認定機関として、乳業者及び 6 次産業化に取り組む酪農家への情報提供、相談受付等を実施してきましたが、本法は令和 5 年 6 月 30 日をもって失効しました。その実績を活かし食品衛生法に基づく HACCP に沿った衛生管理に取り組む乳業者や酪農家を支援するため、関連情報の提供、相談対応等を実施しました。

乳業団体が開催する HACCP 実務者講習会、衛生講習会のテキスト作成、講師として参画しました。

(3)依頼による調査

① 全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼による調査

全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼を受け、全国飲用牛乳公正取引協議会製品等検査規程に基づき市販品成分検査と認定検査機関実務調査を実施しました。また新規依頼として、期限表示設定検証試験を実施しました。市販品成分検査（乳飲料を除く）については試験結果の判定まで実施し、定期成分検査（受託数は 2 の（1）の内数：200 検体）については合否判定まで実施しました。

市販品成分検査

単位：検体

種類	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
牛乳	178	197	174	218
加工乳	15	16	20	12
乳飲料	171	151	188	162
成分調整牛乳他	39	42	35	32
計	403	406	417	424

期限表示検証試験

	依頼者数	検体数
第 1 期（8 月 19 日～9 月 4 日）	5	60
第 2 期（11 月 18 日～12 月 18 日）	7	84
計	12	144

認定検査機関実務調査は、すべて現地調査で対応しました。

・認定検査機関の実務調査:24 施設

(5 年度:25 施設、4 年度:29 施設、3 年度:24 施設)

②生乳と乳製品の安全性・信頼性向上事業のうち 6 次化乳製品の衛生管理支援事業

(公財)全国競馬・畜産振興会助成(令和 6～8 年度)

6 次化乳製品の製造・販売により経営安定を目指す酪農家に、HACCP への適切な対応や 6 次化乳製品の安全性、品質、信頼の向上のために、外部委員による推進委員会(6 月開催)における具体的な計画等の検討後、計画どおり 10 戸の工房を対象として以下ア～エを実施しました。

ア. 衛生管理計画、HACCP プラン策定、検証のための検査・助言

・工房の環境検査:20 件(各工房 2 回)

・生乳の殺菌工程前後の微生物検査数:120 件(各工房 2 回×(殺菌前 3 件+殺菌後 3 件))

・HACCP 模擬立入検査:3 件

イ. 乳製品の安全性、品質安定・向上のための技術的支援

・生乳及び乳製品の成分、微生物等検査数:100 件(各工房 2 回×5 件)

ウ. 期限表示設定のための技術的支援

・期限表示設定のための検査:10 件(各工房 1 回)

エ. 衛生管理研修会等による技術的支援

・衛生管理研修会:第 1 回(11 月 13 日開催、参加 13 人)

第 2 回(3 月 28 日開催、参加 12 人)

③飼養管理指標検査普及推進事業

地方競馬全国協会補助(令和 5～7 年度)

適正な生乳取引に必要な生乳検査の精度管理及び乳牛の飼養管理指標(脂肪酸組成)検査の精度管理を図るため、ア及びイを実施しました。

ア. 飼養管理の指標として活用され始めている生乳中の脂肪酸組成及び遊離脂肪酸の検査の精度管理に必要な校正用試料乳(校正乳)の提供体制を整え、精度管理の手法について検討し、脂肪酸組成および遊離脂肪酸に関する検査技術者連絡会(講演3題:「脂肪酸組成の検討状況について」、「遊離脂肪酸検量線の校正管理」、「遊離脂肪酸用校正乳提供および外部精度管理調査試行について」)を12月3日に、普及のための研修会(講演2題:「遊離脂肪酸情報の意義と活用方法について」、「飼養環境とバルク乳成分の結果から見えてきた脂肪酸組成の利活用」)を3月18日に開催しました。

イ. 生乳検査所における生乳検査の精度管理に必要な校正乳の定期的提供を続けられるよう、適切な原料生乳を安定的に調達できる手法を確立するための調査・検討を行いました。

④国産ナチュラルチーズ高付加価値化推進事業

地方競馬全国協会補助(令和 6～8 年度)

国産チーズスターターの実用化を図るため、チーズ工房ワークショップを 6 月 12 日に東京および 7 月 2 日に札幌で開催及びチーズ工房での取り扱いを容易とする粉末形状等のスターターの試作・配布を 22 戸のチーズ工房に行い、それを用いて製造したチーズの品質に係る科学的データ収集し、その品質向上の度合いを可視化しチーズ生産者に共有することにより利用促進を図りました。あわせて 3 月 12 日に開催した消費者向けイベント等により国産スターターを利用した国産ナチュラルチーズの需要創造を図りました。

3 研修会の開催・講師派遣

〔協会主催の研修会〕

生乳や乳製品の検査を行う技術者を対象とした実技中心の研修会は、計5回、感染症予防対策を徹底して対面形式で開催し、参加者は合計39名(5年度39名、4年度38名)でした。研修生のご要望等に的確にお応えできるよう、講義内容、資料、実習用器材等について工夫、改善を加えながら実施しました。

官能評価員研修会は、乳・乳製品の官能評価体制強化支援事業((公財)全国競馬・畜産振興会助成(令和5～7年度))を活用して開催しました。基礎研修会を4回、専門研修会を1回、集乳担当者向け基礎研修会をオンライン形式で6回、酪農家向け研修会を対面で2回開催しました。

開催実績

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
生乳検査技術研修会 実技:乳脂肪分、たんぱく質 乳固形分、比重、 体細胞数、抗生物質 講義等:生乳検査精度管理に 関する講義、認証制 度の説明	5月13日～15日	8人
	7月 8日～10日	8人
	10月7日～ 9日	8人
	1月20日～22日	7人
	2月26日～28日	8人
	計5回 〔 5年度 5回 4年度 5回 〕	計39人 〔 5年度 39人 4年度 38人 〕
乳糖検査技術研修会 実技:レイン・エイノン法	8月22日～23日	1人
	計1回 〔 5年度 1回 4年度 1回 〕	計1人 〔 5年度 1人 4年度 1人 〕
ブリード法検査技術研修会 実技:ブリード法	2月12日	4人
	計1回 〔 5年度 なし 4年度 なし 〕	計4人 〔 5年度 なし 4年度 なし 〕
官能評価員育成 基礎研修会 研修会	5月16日	14人
	6月20日	15人
	9月12日	17人
	10月29日	12人
	専門研修会 1月22日～23日	18人
	計5回 〔 5年度 7回 4年度 7回 〕	計76人 〔 5年度161人 4年度 76人 〕
	集乳担当者向け 基礎研修会	137人 〔 5年度 オンライン129人 4年度 オンライン195人 〕
	酪農家向け 基礎研修会	4人
		11人

〔乳業関係団体等の依頼による研修会〕

全国飲用牛乳公正取引協議会、一般社団法人日本アイスクリーム協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会等の依頼を受け、検査技術研修会 9 回(5 年度 9 回、4 年度 12 回)、アイスクリーム検査技術研修会 2 回(5 年度 2 回、4 年度 2 回)、微生物検査研修会 1 回(5 年度 1 回、4 年度 1 回)、リステリア・モノサイトゲネス定性試験法研修会 1 回(初開催)の合計 13 回実施し、参加者は合計 110 名(5 年度 115 名 4 年度 89 名)でした。

開催実績

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
全国飲用牛乳公正取引協議会 検査技術研修会	5月20日～5月24日 合併コース	6 人
・分析基礎コース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 乳固形分（全固形分） 比重、滴定酸度 講義等：精度管理に関する講義	5月29日～5月31日 分析基礎コース 細菌検査コース	7人 5人
・細菌検査コース 実技：細菌数、大腸菌群、 低温菌数、 耐熱性菌数、体細胞数、 抗生物質 講義等：精度管理に関する講義	6月17日～6月21日 合併コース	8人
・合併コース 実技：分析基礎コース、細菌検査 コースの合併	6月26日～6月30日 合併コース	8人
	7月24日～7月26日 分析基礎コース 細菌検査コース	5 人 0 人
	8月26日～8月30日 合併コース	8人
	9月25日～9月27日 分析基礎コース 細菌検査コース	5人 4人
	10月21日～10月25日 合併コース	8人
	11月18日～11月22日 合併コース	8人
	12月2日～12月6日 合併コース	中止
	計9回 〔 5年度 9回 4年度 12回 〕	計72人 〔 5年度 82人 4年度 62人 〕

一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会 微生物検査研修会 実技：一般細菌数、乳酸菌数、 ビフィズス菌数、大腸菌群 講義：発酵乳・乳酸菌飲料における微生物学の基礎と検査方法	11月27日～11月28日 〔 5年度 1回 4年度 1回 〕	20人 〔 5年度 17人 4年度 10人 〕
一般社団法人日本アイスクリーム協会 アイスクリーム検査技術研修会 ・理化学コース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 全固形分 ・微生物コース 実技：細菌数、大腸菌群、黄色 ブドウ球菌、抗生物質	12月18日～20日 理化学コース 微生物コース	3人 4人
	2月19日～21日 理化学コース 微生物コース	6人 3人
	計2回 〔 5年度 2回 4年度 2回 〕	計12人 〔 5年度 12人 4年度 15人 〕
(随時研修) リステリア・モノサイトゲネス定性 試験法研修会 実技：リステリア・モノサイトゲネ ス定性試験	3月14日	2人

【講師派遣】

乳業団体等の依頼を受け、のべ13名(5年度 10名、4年度 13名)の講師等を派遣しました。

派遣実績

研修会の主催者、内容等	期間	場所
東京飲用牛乳協会 牛乳衛生講習会	7月11日	東京都 千代田区
一般財団法人蔵王酪農センター ナチュラルチーズ製造技術基礎研修会 「安全なチーズを生産していただくために」	8月21日 11月27日	宮城県 蔵王町
流通企業 生乳検査研修会	8月27日	岩手県 胆沢郡
中国生乳販売農業協同組合連合会 生乳検査技術研修会	9月20日	岡山県 津山市
一般社団法人 日本乳業協会、福島県牛乳協会 牛乳衛生講習会	10月9日	福島県 郡山市
栃木県牛乳協会 衛生講習会	11月20日	栃木県 宇都宮市

全国農業協同組合連合会長野県本部 ブリード法研修会	2月13日	長野県 松本市
北海道乳業 レイン・エイノン法研修会	2月27日 2月28日	北海道 函館市
関東生乳販売農業協同組合連合会 CS 職員等研修会	3月17日	東京都 千代田区

全国農協乳業協会の依頼を受け、「乳業製造技術通信教育」の「牛乳・乳製品検査法」の講師を担当し、テキストの改訂、レポートの課題作成、添削、採点等を行いました。

一般社団法人 全国発酵乳乳酸菌飲料協会の依頼を受け、食品衛生管理に関する e ラーニングシステムの新コンテンツ「加熱殺菌の基礎」の作成に協力しました。

一般社団法人 J ミルクの依頼を受け、土日ミルクフェス(11 月 16 日 東京都江東区)の官能評価体験ブースにアドバイザーとして参加しました。

4 研究・技術・調査情報の提供等

(1)乳業技術誌の刊行

Vol.74 2024 を刊行し、関係行政機関、酪農乳業団体・企業、関係大学他約 200 施設に配布しました。

編集委員(◎編集委員長)

◎松 田 幹	福島大学 農学群 食農学類 教授
小 林 敏 也	雪印メグミルク株式会社 ミルクサイエンス研究所
齋 藤 忠 夫	東北大学 名誉教授
鈴 木 チ セ	日本大学 生物資源科学部 食品開発学科 教授
武 田 安 弘	森永乳業株式会社 研究本部
藤 川 浩	東京農工大学 名誉教授
前 田 和可子	協同乳業株式会社 研究所
三 浦 貴 裕	株式会社 明治 加工技術研究ユニット
姫 田 尚	公益財団法人日本乳業技術協会 理事長
辻 山 弥 生	公益財団法人日本乳業技術協会 専務理事

総説・解説

世界で注目される A2 ミルクの有効性と乳加工に与える影響(齋藤 忠夫)

日本独自のブラウンチーズ開発と普及について(三浦 孝之、佐藤 薫)

調製液状乳の開発:製造技術と栄養設計(高橋 啓次)

読者からの話題提供

畜産現場における農場 HACCP 認証制度の役割

一生産衛生の向上を目指して―(酒井 健夫)

LL 牛乳の規格基準の設定と今後の展望(滝本 浩司)

乳技協だより

官能評価体制強化に係る新たな取組み(大嶋 秀克)

6次産業化に取り組む酪農家のための事業の概要(佐々木 進)

検査技術研修会での質問から(佐川 未弥)

(2)全国集乳路線別生乳成分調査

全国の生乳成分(乳脂肪分(F)、無脂乳固形分(SNF))の調査を昭和 50 年以降継続して実施しており、乳業各社のご協力を得て「全国集乳路線別生乳成分調査第 50 報」を取りまとめ、協会HPに公表しました。

令和 6 年 1 月～12 月の調査延べ路線数は、工場到着ローリー乳で 7, 625(令和 5 年 7, 845、令和 4 年 7, 911)、全生乳生産量(1日あたり)に対する調査対象乳量のカバー率は 41.5%(令和 5 年 42.4%、令和 4 年 41.8%)でした。

協力会社名(50 音順)

協同乳業株式会社

グリコマニユファクチャリングジャパン株式会社

信州ミルクランド株式会社

北陸酪農業協同組合連合会

株式会社明治

森永乳業株式会社

雪印メグミルク株式会社

よつ葉乳業株式会社

F, SNFの地域別平均値

単位:%

地域	F	S N F	地域	F	S N F
北海道	4.040	8.866	近畿	3.923	8.849
東北	3.987	8.769	中国	4.010	8.887
関東・東山	3.912	8.799	四国	3.975	8.810
北陸	3.879	8.821	九州	3.971	8.834
東海	3.852	8.813			
			全国平均	4.019	8.856
			〔 令和 5 年	3.991	8.818
			令和 4 年	3.992	8.830

(3)技術関連情報の提供

乳・乳製品の試験検査の手技・手法、品質管理や表示のための試験法、分析値の活用法等に関する乳業者、乳業団体、公的機関の試験検査担当者、6次産業化に取り組む酪農家、流通業者等からの幅広い問い合わせに対応しました。

協会ホームページに、生乳検査精度管理に関する情報、乳業技術 Vol.74 2024、生乳検査精度管理に関する情報、試験検査に関連する情報及び、オンラインで実施した講演の動画等を掲載しました。

(4)関係機関、関係団体との連携

関係機関、関係団体の会議、委員会等に参加(リモート、書面を含む。)し、情報の収集や意見交換等を行いました。

団 体 等	会合名、内容等
全国飲用牛乳公正取引協議会	常任委員会、専門部会、専門小委員会
(一社)日本乳業協会	定時社員総会、HACCP 検討小委員会
(一社)日本乳容器・機器協会	理事会
チーズ公正取引協議会	常任委員会、技術小委員会
(公社)畜産技術協会	総会
(公社)中央畜産会	定時総会
畜産飼料調査会	総会
東京飲用牛乳協会	品質改善委員会
関東生乳販売農業協同組合連合会	生乳品質改善共励会(理事長賞)
食品衛生登録検査機関協会	総会
全国農協乳業協会	「乳業製造技術者通信教育」講師検討会議
(一社)Jミルク	定時総会、ISO/TC34/SC5 国内審議委員会他

(5)研究成果の発表

乳業技術 Vol.74「乳技協だより」に、官能評価体制強化に係る新たな取組み、6次産業化に取り組む酪農家のための事業の概要、検査技術研修会での質問からを掲載しました。

5 生乳検査精度管理

生乳検査精度を高い水準で維持することの重要性に鑑み、引き続き、測定機器校正のための試料乳(乳成分用、体細胞数用)の配布、生乳検査外部精度管理調査(技能試験)及び生乳検査精度管理認証制度の業務を実施しました。

(1)測定機器校正のための試料乳の配布

乳成分用試料乳配布数 2,635 セット

(5 年度 2,648 セット、4 年度 2,669 セット、3 年度 2,719 セット)

体細胞数用試料乳配布数 357 セット

(5 年度 370 セット、4 年度 392 セット 3 年度 397 セット)

配布に併せ、キャリブレーション参考資料を協会 HP に毎月掲載しました。

(2)生乳検査外部精度管理調査

参加施設 102 施設 (5 年度 104 施設、4 年度 105 施設、3 年度 107 施設)

参加施設名を協会 HP に掲載して公表するとともに、「参加証」を引き続き発行しました。

(3)生乳検査精度管理認証制度

生乳と乳製品の安全性・信頼性向上事業の生乳検査精度管理認証制度事業((公財)全国競馬・畜産振興会助成(令和 6~8 年度))を活用して次のように実施しました。

- ・ 国際規格の ISO/IEC17025 に準拠させる改正を実施するとともに、「生乳検査精度管理認証基準」と名称を改めました。
- ・ 認証申請施設の書類調査・現地調査を、更新14施設について実施し、生乳検査精度管理認証特別委員会(9月、3月)の審議・答申を受けて、10月1日付け及び4月1日付けで14施設(更新14)を認証しました。
- ・ 生乳検査精度管理委員会・生乳検査精度管理認証特別委員会を合同開催(12月・1月(書面開催))し、認証規定の改正内容について意見を聴取した。
- ・ 生乳検査技術者連絡会を開催(1月)し、「食品分析試験所の品質保証に関する世界の常識・非常識」の講演を実施しました。
- ・ 信頼性確保部門責任者研修会(3月)をオンデマンド開催し、認証基準の運用関連の説明を実施しました。

6 国際酪農連盟日本国内委員会

微生物・衛生専門分科会(9月、2月、3月)、分析技術・衛生専門分科会(9月、2月、3月)、国際規格専門分科会(9月、2月)、ISO/TC34/SC5(牛乳及び乳製品) 国内審議委員会(7月、11月、3月)に参画しました。

〔収益事業等〕

所有する土地建物の貸借業務を民間事業者に委託して実施し、運用益は計画どおり公益目的事業に充当しました。

〔 報 告 事 項 〕

1. 庶務事項

令和 6 年 4 月 10 日	令和6年度畜産振興補助事業選定申請書提出 (地方競馬全国協会)
令和 6 年 4 月 10 日	令和6年度日本中央競馬会畜産振興事業実施計画の 承認申請書提出((公財)全国競馬・畜産振興会)
令和 6 年 4 月 18 日 ～ 19 日	公認会計士 指導・監査
令和 6 年 4 月 25 日	令和5年度日本中央競馬会畜産振興事業実績報告書 提出((公財)全国競馬・畜産振興会)
令和 6 年 5 月 9 日	監事監査
令和 6 年 5 月 13 日	第38回理事会
令和 6 年 5 月 29 日	令和5年度畜産振興補助事業完了報告書提出 (地方競馬全国協会)
令和 6 年 5 月 29 日	消費税申告(麴町税務署)
令和 6 年 5 月 31 日	消費税納付(麴町税務署) 法人税等納付(麴町税務署他)
令和 6 年 6 月 11 日	第20回評議員会、第39回理事会
令和 6 年 6 月 20 日	法人税等確定申告(麴町税務署他)
令和 6 年 6 月 26 日	定款変更届出書提出(内閣府公益認定等委員会)
令和 6 年 6 月 27 日	令和5年度事業報告書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 6 年 7 月 1 日	社会保険算定基礎届完了
令和 6 年 7 月 10 日	労働保険料確定申告書提出(東京労働基準局)
令和 6 年 8 月 6 日	食品衛生法登録検査機関の定期立入検査 (厚生労働省関東信越厚生局)
令和 6 年 9 月 18 日	令和5年度助成事業監査((公財)全国競馬・畜産振興会)
令和 6 年 10 月 22 日	令和5年度補助事業監査(地方競馬全国協会)
令和 7 年 1 月 7 日	乳業諸団体新年賀詞交換会
令和 7 年 1 月 20 日	償却資産申告書提出(千代田都税事務所)
令和 7 年 1 月 20 日	令和7年度日本中央競馬会畜産振興事業実施計画の 承認申請書提出((公財)全国競馬・畜産振興会)
令和 7 年 2 月 18 日	ISO認定試験所のサーベイランス((公財)日本適合性認定協会)
令和 7 年 3 月 24 日	第40回理事会
令和 7 年 3 月 28 日	令和7年度事業計画書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 7 年 3 月 31 日	事業年度終了

2. 会 議

第38回 理事会(令和6年5月13日)

- 1) 令和5年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 定款変更(案)に関する件
- 3) 規程を変更する件
- 4) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について
- 5) 職務執行状況報告

第20回 評議員会(令和6年6月11日)

- 1) 令和5年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 定款変更(案)に関する件
- 3) 規程を変更する件
- 4) 評議員及び理事の選任について
- 5) 令和6年度事業計画書及び収支予算書等の報告

第39回 理事会(令和6年6月11日)

- 1) 役付き理事の互選について

第40回 理事会(令和7年3月24日)

- 1) 令和7年度事業計画書及び収支予算書等の承認について
- 2) 特定費用準備資金取崩しの件
- 3) 規程を変更する件
- 4) 職務執行状況報告

3. 役 員

令和6年6月11日

下記の役員に関し、第20回評議員会で選任。

再任 理 事 佐藤 雅幸、辻山 弥生

就任 理 事 磯貝 保

退任 理 事 高橋 勉

令和6年6月11日

下記の役員に関し、第39回理事会で役付き理事を選定。

業務執行理事 及び 専務理事 辻 山 弥 生

令和7年3月31日現在

理事長 姫田 尚

専務理事 辻山 弥生

理 事 阿久澤 良造、磯貝 保、井上 剛彦、小久保 彌太郎、
小林 一郎、佐藤 雅幸、原田 裕司、松田 幹、柳田 恭彦

監 事 佐藤 靖、竹原 一明

4. 評 議 員

令和6年6月11日

下記の評議員に関し、第20回評議員会で選任。

就任 評議員 宮崎 淑夫

退任 評議員 沼田 一政

令和7年3月31日現在

五十君 静信、浦島 匡、大貫 陽一、菊池 淳志、桑崎 俊昭、
小菅 英夫、齋藤 忠夫、酒井 健夫、佐藤 雅俊、島崎 敬一、
清水 隆司、清水 誠、畑江 敬子、松田 克也、三浦 晃一、
水町 功子、宮崎 淑夫、宮崎 幹生

5. 職員等の異動

期首人員	20 名
採用者	0 名
退職者	1 名
期末人員	19 名

令和6年度事業報告 附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年5月

公益財団法人日本乳業技術協会